

毎月公衆トイレ磨き17年

飯塚の市民団体「筑豊掃除に学ぶ会」

未明の冬空に、白い息が立ち上る。飯塚市内の公衆トイレで便器や床を定期的に磨き上げる人たちの口から漏れていた。市民団体「筑豊掃除に学ぶ会」のメンバーは今年、発足17年を迎える。精神的な活動には目標がある。トイレを徹底的に掃除する会を通じ、「自らの心も磨く」ことだ。

■「猛者」も登場

取り掛かつた。
「水こし」と呼ばれる小

■ 全国に広がる

「ぐくほどきれいになるから」と話す。いつの間にか半袖姿に変わり、掃除に打ち込んでいた。メンバーを見ると、ビニール手袋をはめた人もいれば、素手のままで励む「猛者」もいた。

■ 心の教育にも

真冬早朝も実践 心の「環境美化」を目指す

ぶ会」もその一つだ。筑豊では、参加者が毎月500円を道員購入費として納めている。掃除するトイレも、勝盛公園内や市役所周辺の街頭など月ごとに変え、各回、10人程度が早朝からいそしむ。

■ 心の教育にも

子どもの情操教育も目指している。廣瀬さんの本業は学習塾の運営。2005年に会を発足させたのは、掃除を通して「心豊かな子どもを育てる」のが狙いだった。

現在は「日本を美しくする会」の九州ブロック長も務める。昨秋は、長崎県佐世保市の中学校で生徒と一緒にトイレ掃除に励んだ。

参加した生徒からは「最初は嫌だったけど、きれいになり始めるど、もつときれいにしたくなつた」といった声が聞かれたという。達成感を得られたためか、掃除を終えた後、子どもたちには笑顔も広がった。

人が嫌がることを進んで行うことで、落ち着きや感謝の気持ちが育まれ「心の環境が整う」と廣瀬さん。新型コロナウイルス禍でも「できる範囲で活動を続ければ」と話す。